

## 8. 図書館協議会

平成 26 年度は 3 回（7・11・2 月）開催された。25 年度に答申を受けて策定した「豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）」の進捗状況や分館（特に高川図書館）のあり方について討議を行った。

平成 26 年度の委員一覧

名 前	団体名・役職等
舟 岡 直 子	小学校長代表
日下部 雅 彦	中学校長代表
斉 藤 雅 美	幼稚園長代表
橘 高 美那子	婦人団体連絡協議会
松 田 美和子	豊中子ども文庫連絡会
鶴 川 ま き	豊中図書館の未来を考える会
◎岸 本 岳 文	学識経験者
○渥 美 公 秀	学識経験者
村 上 泰 子	学識経験者
杉 浦 公 男	市民公募

◎委員長 ○委員長職務代行者

## 9. 図書館評価

図書館運営を振り返り、効果的・効率的な運営と、より一層の図書館サービスの向上および地域との情報共有を図る仕組みとして平成 20 年度から「豊中市立図書館評価システム」（以下、「評価システム」）を導入し、図書館運営に関する自己点検・自己評価を実施してきた。

「豊中市立図書館の中長期計画」（以下、グランドデザイン）の策定を機に、「評価システム」から「グランドデザイン」の進行管理に移行することとした。

評価については、「豊中市の図書館活動」の統計編に簡略化した形で組み込み、「評価システム」による自己点検評価は、次回の外部評価の際に実施する予定である。

## 10. グランドデザインの進捗状況

### グランドデザインの4つの目標 進行管理報告書（平成26年度）

グランドデザインの4つの目標とは「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」（平成26年3月策定、以後グランドデザイン）において、平成35（2023）年までに図書館のめざす姿を実現するために設定されたものです。

図書館のめざす姿を実現するため、28のプランを優先順位の高いものからすすめることになっています。ここでいう優先順位とは、緊急度やコスト、図書館を取り巻く状況等を総合的に判断するもので、優先度＝重要度ではありません。この優先順位の高いプランの実施状況を確認することで、グランドデザインの進捗状況の点検をすすめていきます。進行管理については以下のとおり行います。

- ・0～4の目標のうち、複数のプランがあるものについては、図書館の使命および関連の事業計画や図書館を取り巻く現状などに照らし合わせ、優先順位を決定します。決定には直接サービスに関わる分館の施設長等も関わります。
- ・28のプランを関連する4つの目標（1～4）と目標実現を支える取り組み（0）ごとに分類します。
- ・28のプランの優先順位の高い取り組みを抽出し、事業ごとの取り組みや課題、次年度に向けての予定を達成状況とともに表しています。
- ・優先順位の高い取り組みがどの程度達成できているか確認することにより、図書館のめざす姿の実現に向けての進行管理とします。

達成度 ◎：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：一部達成 ー：未達成

#### 1. 学びによる市民と地域の自立を支えます。

該当プラン ⑳・㉑・㉒・㉓・㉔

優先的な取組プランと事例		課題、平成27年度に向けての取り組み
<b>㉔図書館サポーターへの参加機会の提供</b> 【事例】 成人利用者向けの「図書館お仕事体験ツアー」を、庄内図書館、東豊中図書館で開催し、利用者に図書館の仕事の一部を体験してもらいました。	○	【課題】 ○市民のそれぞれの得意分野で活動できる制度設計㉔  【平成27年度に向けての取り組み】 ・引き続き、平成28年度の導入をめざして、図書館協議会で議題とし、他市の事例を研究・検討していきます。㉔

#### 2. 市民の利便性を向上させあらゆる情報を提供します。

該当プラン ⑰・⑱・㉕・㉖・㉗

優先的な取組プランと事例		課題、平成27年度に向けての取り組み
<b>⑰セルフ貸出、返却、予約受取</b> 【事例】 セルフ貸出機を岡町・野畑・千里に導入するとともに、予約の受け取り・貸出を行う予約図書受渡システム（e-棚）の千里への導入が完了しました。	◎	【課題】 ○セルフ貸出機等を導入した館におけるサービスの効果検証 ○全図書館への導入をめざした調整⑰  ○事業の見直しや常勤職員、短時間勤務職員、一般職非常勤職員および臨時職員の役割分担を明確すること等による、さらなる効率化 ⑱
<b>⑱開館日数の拡充</b> 【事例】 4分館は土・日曜日と祝日が重なる日を開館（2日間）し、セルフ貸出機設置などの工事がない館は、資料点検期間の短縮により、開館日を拡大しました。	△	○セルフ機器導入の効果検証による業務の効率化 ○公衆無線LANのより効果的な活用法の検討 ㉖

<p><b>⑳ICTの活用</b></p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフ貸出機を岡町・野畑・千里に、セルフ返却機を野畑・千里に、予約図書受渡システム（e棚）を千里に、それぞれ導入しました。</li> <li>・公衆無線LAN（フリースポット）による、インターネット接続サービスを開始しました。</li> </ul>	<p>◎</p>	<p>【平成27年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフ貸出機の増設と効果検証をすすめます。<sup>⑰</sup></li> <li>・開館日数については、千里図書館の340日開館に向けて、セルフ貸出機などの効果検証を実施し、課題整理等を行います。<sup>⑱</sup></li> <li>・今後のセルフ機器の導入について、導入場所やサービス形態の戦略的な検討を進めます。また、電子書籍の導入や公衆無線LANの活用についてさらに検討し、地域のラーニングコモンズへの進化を目指します。<sup>㉑</sup></li> </ul>
<p><b>3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します。 該当プラン ④・⑦・⑧・⑭・⑯・㉒</b></p>		
<p>優先的な取組プランと事例</p>		<p>課題、平成27年度に向けての取り組み</p>
<p><b>⑦館ごとの目標設定</b></p> <p>【事例】</p> <p>分館のあり方について図書館内部で検討をすすめる過程で、館の特色・方向性をさらに明確にするよう取り組みました。</p>	<p>△</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「特定事業」および「市有施設有効活用」からの検討と、公共図書館の全域サービスの必要性についての調整<sup>⑦</sup></li> <li>○公共図書館および学校図書館の双方の職場において、平成26年度の成果と課題をふまえた情報共有や研修の充実<sup>⑧</sup></li> </ul> <p>【平成27年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高川図書館が担う（仮称）南部コラボセンターのサテライトの役割について、図書館協議会において検討し、詳細設計を行います。<sup>⑦</sup></li> <li>・常勤職員と他部局の事務職員の人事交流を継続して実施しています。（平成27年度現在2名人事交流を実施）<sup>⑧</sup></li> </ul>
<p><b>⑧関連部局との人事交流</b></p> <p>【事例】</p> <p>図書館での事業の理解を深めるため、新規採用職員とともに人事交流の職員を対象に、図書館のおもな取り組みについての研修を実施しました。また市内のグループウェアに人事交流の制度を周知する記事を掲載しました。</p>	<p>◎</p>	
<p><b>4. 学校図書館の支援を通じて子どもたちの学びの基礎作りを支えます。 該当プラン ⑪</b></p>		
<p>優先的な取組プランと事例</p>		<p>課題、平成27年度に向けての取り組み</p>
<p><b>⑪学校図書館を支援する人材の配置</b></p> <p>【事例】</p> <p>教職員対象に、読書振興課職員が講師となり、授業活用データベース等システムの活用や、アニメーション等読書活動の推進に向けた校内研修を13校で実施しました。（平成25年度4校）。</p> <p>学校での読書活動の取組みを紹介する「ブックプラネット通信」を発行し、教育委員会内や学校、図書館で配布しました（平成26年度から、年3回）。</p>	<p>◎</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育センター、教育推進室小中学校チームと連携した学校図書館活用教育に関する体系的な研修の検討<sup>⑪</sup></li> </ul> <p>【平成27年度に向けての取り組み】</p> <p>平成26年度読書振興課が作成した、「豊中市小学校図書館を活用した授業例【とよなかスタンダード】」を各校で実験的に使用しつつ、【とよなかスタンダード】を活用した実践的な研修を実施し、フィードバックを繰り返しながら完成版の作成をめざします。<sup>⑪</sup></p>

0. 1から4の目標実現を支えます。

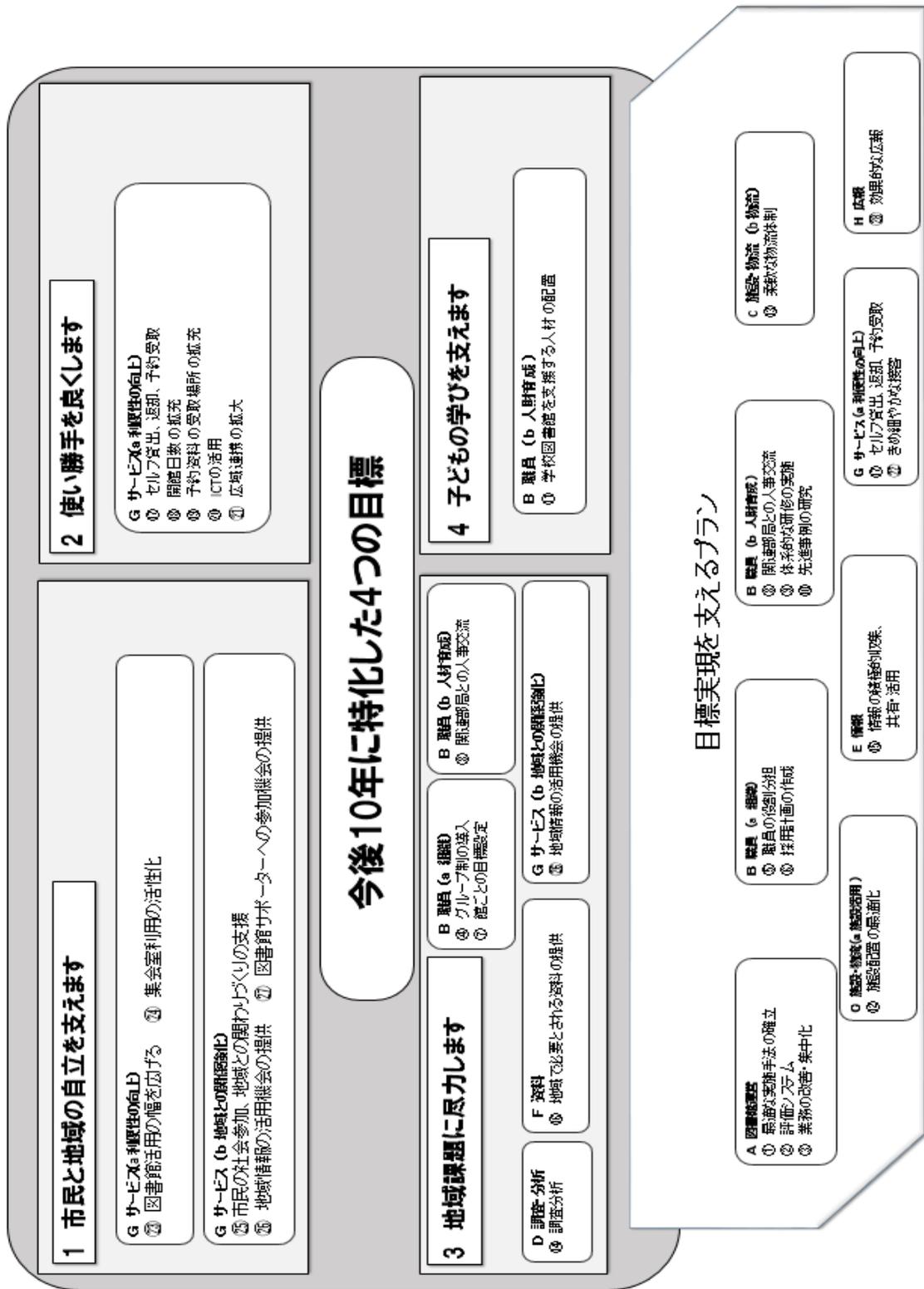
該当プラン①・②・③・⑤・⑥・⑧・⑨  
⑩・⑫・⑬・⑮・⑰・⑳・㉔

優先的な取組プランと事例	課題、平成27年度に向けての取り組み
<p><b>①最適な実施手法の確立</b> 【事例】 分館のあり方、ICTを活用したセルフ貸出機等の導入にともなう業務の見直しなどを館単位、あるいは少人数によるワークショップ、ミーティングを実施し、全体の職員会議で情報共有を行いました。特に高川図書館については先行して分館のあり方の見直しを進めていることから、近隣の保育所や学校への聞き取りに取り組み、地域特性の把握に努めました。</p>	<p>△</p> <p>【課題】 ○コスト感覚を持ち、地域のニーズにあった図書館づくり ○情報や課題の職員間での共有① ○読書振興課と岡町図書館 管理担当との連携による、さらなる業務の改善③ ○異動もふまえた、全職員が把握できるゆるやかな役割分担のガイドライン作成 ○スピーディな方針決定をめざした各連絡会議の効率化⑤ ○公共図書館および学校図書館の双方の職場において、平成26年度の成果と課題をふまえた情報共有や研修の充実⑧</p>
<p><b>③業務の改善・集中化</b> 【事例】 岡町図書館の管理業務について、読書振興課と情報共有の場を持つなど、調整をはかりながら、事務作業の効率化をすすめました。たとえば全館分の物品の購入の取りまとめや消耗品の在庫の管理などについても取り組みました。</p>	<p>○</p> <p>○他部局からの異動者や新規採用職員を対象とした、豊中市立図書館独自の研修プログラムの充実⑨ ○（仮称）南部コラボセンター基本構想をふまえた、高川図書館の機能変更。 ○公共施設での聞き取りやモデル事業の実施による地域のニーズを把握 ○セルフ貸出機等、ICTを活用したサービスによる業務の効率化</p>
<p><b>⑤職員の役割分担</b> 【事例】 館内のサービスに責任を負う常勤職員のフロアマネージャーを地域館に配置しました。多様な雇用形態の職員の役割分担について分館長・副館長会議にて各館での実態把握等を行いました。</p>	<p>△</p> <p>⑫ ○セルフ貸出機等を導入した館におけるサービスの効果検証 ○全図書館への導入をめざした調整 ⑰ ○セルフ貸出機を活用したフロアワークのあり方。⑳</p>
<p><b>⑧関連部局との人事交流</b> 【事例】 図書館での事業の理解を深めるため、新規採用職員とともに人事交流の職員を対象に、図書館のおもな取り組みについての研修を実施しました。また庁内のグループウェアに人事交流の制度を周知する記事を掲載しました。</p>	<p>◎</p> <p>【平成27年度に向けての取り組み】 ・高川図書館については平成27年度中に機能変更の、より具体的な計画を作成します①  ・読書振興課と岡町図書館管理担当の業務について、一部に一体的な運用をはかり、業務の効率化をめざします。③  ・平成26年度の各館集約をふまえて、分館長・副館長会議や館長会にて役割分担の明示をすすめます。 方針決定が効率的に行える各会議のあり方やそれぞれの議論内容をつなぐ役割を検討します。 ⑤  ・常勤職員と他部局の事務職員の人事交流を継続して実施しています。（平成27年度現在2名人事交流を実施）⑧</p>

<p><b>⑨体系的な研修の実施</b> 【事例】 行政職と専門職の業務内容とキャリア形成の側面から、必要な研修情報を担当者を通じて提供し、府や市の研修支援制度の活用も含めて実施しました。 児童図書館員養成講座を1名、新任館長研修を2名が受講しました。 豊中市立図書館の特色ある取組みについて、内部研修を実施しました。</p>	○	<p>図書館司書専門講座・中堅職員ステップアップ研修・新任館長研修に職員派遣します。また、昨年度に引き続いて、豊中市立図書館独自の研修プログラムを実施します。⑨</p> <p>事務の集中化、ICTを活用したサービスをすすめる中で、人員および施設配置を検討します。また高川図書館を中心とした分館のあり方について、より具体的なプランを作成します。⑩</p> <p>セルフ貸出機の増設と効果検証をすすめます。⑪</p> <p>セルフ貸出機等の導入の効果を確認し、フロアワークの見直しを行います。また、研修も引き続き実施していきます。⑫</p>
<p><b>⑫施設配置の最適化</b> 【事例】 全体の職員会議などで「特定事業の見直し」の作業工程の一つとして、分館のあり方、特に高川図書館の多機能化について討議を行い、平成27年度中に具体的な機能変更についての計画を明らかにすることとしました。</p>	△	
<p><b>⑬セルフ貸出、返却、予約受取</b> 【事例】 セルフ貸出機を岡町・野畑・千里に導入するとともに、予約の受け取り・貸出を行う予約図書受渡システム(e-棚)の千里への導入が完了しました。</p>	◎	
<p><b>⑭きめ細やかな接客</b> 【事例】 気軽に声をかけ易いようワッペンを装着し、フロアワークの実践を続けました。研修支援制度を活用し、外部講師による接遇の研修を実施しました。</p>	○	

# くぐランドデザイン4つの目標と28のプラン 概念図

「豊中市立図書館ぐぐランドデザイン」とは、平成35年(2023年)まで図書館をめざす姿を表現するために、平成26年3月に策定されたものです。



## 11. とよなかブックプラネット事業

学校図書館と市立図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備することにより、児童生徒の読書活動を推進し、自ら学ぶ力の育成をめざす「ブックプラネット事業」では、平成25年の「とよなか読書活動支援システム」稼働や、物流便の充実など、環境整備をおこなってきた。26年度は整備した環境の活用を進める取組みを実施した。



授業活用データベースや情報共有システムの活用を進めるため、12校で校内研修を実施し、先生による授業例の登録や教員向け資料の利用も増えつつある。図鑑セットや百科事典等が、利用しやすいよう物流便のコースに学校図書館支援ライブラリーを組み込む環境整備のほか、学校図書館の活用事例を紹介するブックプラネット通信の発行を開始し、教職員・教育委員会内へのPRに努めた。

また、休館日の市立図書館で児童・生徒が調べ学習を体験する「知的探究合戦『めざせ！図書館の達人』」、あさのあつこさんをお招きして子ども読書活動フォーラム「GOOD A WORD 2014 ～あさのあつこさん作品の心に響くことば～」を開催した。

27年3月には、学校図書館を活用した授業実践のさらなる推進をめざし、小学校の授業例「とよなかスタンダード」を作成した。今後は「とよなかスタンダード」を教職員向け研修や各学校の実践で活用しながら完成版をめざすとともに、教育センター、学校教育課と連携した取組みを進めていきたい。